

## 大阪府・大阪市出展参加基本構想(たたき台)

## 骨格 <目次 (案) >

### 第4回懇話会 文案提示項目

1. 出展参加の意義
2. 出展参加でめざすもの
3. 出展参加のテーマ
4. テーマ展開の視点
5. 出展参加の主体
6. 展示・催事の基本的考え方
7. 展示・催事の構成（ゾーン区分）
8. 施設の位置及び規模
9. レガシーの継承

### <参考：2005愛知万博> 愛知県出展基本構想の目次

- 1 出展参加がめざすもの
- 2 出展参加のテーマ
- 3 テーマ展開の視点
- 4 出展参加の主体
- 5 展示・催事の基本的考え方
- 6 展示・催事の構成
- 7 施設の位置及び規模
- 8 出展成果の継承

## 1. 出展参加の意義

近年、人工多能性幹細胞（iPS細胞）に代表されるライフサイエンステクノロジーや、人工知能、ロボティクスなど、革新的な技術は長足の進歩を遂げています。かつてないスピードで私たちを取りまく環境が変化するなかで、私たちには、幸福とはなにか、自らのポテンシャルを最大限発揮するためにはどうするべきか、それを支える社会はどうあるべきか、という問いが投げかけられているといえるでしょう。

一方、世界に目を向けると、先進国と途上国の生活環境の格差は依然として大きく、持続可能な開発目標（SDGs）として国連が提唱する、世界が直面するグローバルな課題を乗り越え、「誰一人取り残さない」社会を実現していくにはまだまだ道半ばと言えます。

こうした課題認識のもと**2025年**の大阪・関西万博は「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに設定し、人間一人ひとりが自らの望む生き方を考え、それぞれの可能性を最大限に発揮できるようにするとともに、こうした生き方を支える持続可能な社会を国際社会が共創していくことを推し進めることをめざしています。

**2020年**、新型コロナウイルスの感染拡大により世界中で多数の死者・感染者が出ました。人類に大きな試練を与えると同時に、「いのち」の大切さを考えさせられる出来事となりました。この感染症との闘いにおいて、日本では全国に緊急事態宣言が発せられ、外出自粛が広がる中、企業におけるテレワーク、学校教育でのオンライン授業、医療現場でのオンライン診療など、新たな社会システムへの変化の兆しができました。こうした動きを感染症への対策として終わらせることなく、誰もが暮らしやすい社会の構築や生活の質（QOL）の向上につなげていくことが求められています。

**2025年**大阪・関西万博の開催都市となる大阪は、かつて、全国の米、特産物が取引され「天下の台所」と称され、優れた食文化を築き上げてきました。現代は、最先端のライフサイエンス研究拠点や、高い生産技術力を有する中小企業が集積しています。さらに、大阪人は持ち前の「進取の気質」により、これまで世界に先駆けて先物取引市場の開設や世界の食文化を変えたインスタントラーメンなど、新たな社会システムや産業、製品等を数多く生み出してきました。また、民生委員制度のもととなるしくみ（方面委員制度）は大阪から全国へ普及し、日本発のボランティアセンターは大阪で設立されるなど、民の力が社会を支える仕組みも大阪発で発展したものです。こうした大阪のポテンシャルは、大阪・関西万博のテーマを実現していくうえでも、なくてはならない知恵と技術力、行動力です。

さらに、世界の国々が一堂に集まる万博にオール大阪として出展することは、大阪のポテンシャルの世界的なアピール、魅力発信につながるるとともに、協働するパートナーが万博開催を通じて多様な分野と融合することで生じる新たなイノベーションの創出及び人々の生活の質（QOL）の向上が期待され、ひいては大阪の都市としての成長・経済発展に寄与するものとなります。

## 2. 出展参加でめざすもの

大阪・関西万博の開催目的を踏まえ、開催都市・大阪は、オール大阪の知恵とアイデアを結集させ、訪れた人々が「いのち」や「健康」、近未来の暮らしを感じられる展示を実現するとともに、大阪という都市の活力・魅力を世界のより多くの人々に伝えていきます。

とりわけ、「いのち輝く未来社会のデザイン」という大阪・関西万博の開催テーマは、国連が掲げる2030年の「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成にとどまらず、+beyond（2030年より先）への飛躍の機会となることも期待されています。開催都市として、世界の先頭に立ってSDGsの達成に貢献するため、「SDGs先進都市」の姿を明確にし、新たな取り組みの創出を図り、SDGs達成目標の2030年以降を見据えた取り組みを世界に発信していきます。

来場者が、開催都市・大阪が出展するパビリオン等に参加し、体験や共創を通じて、深く心に記憶されることをめざし、次の取り組みを実現します。

### (1) 世界に貢献する大阪の姿を示す

パビリオンにおける展示によって、超高齢化社会の到来を見据えた人々の生活の質（QOL）の向上、SDGs達成目標の2030年以降を見据えた将来像、誰もが心身豊かで快適に暮らしやすい未来社会のモデルを創造し、発信します。

#### ◇生活の質（QOL）を向上させる展示

人々が健康寿命を延ばし、生涯にわたり生き活きとした生活を送れるよう、生活の質（QOL）を向上させる展示を実現し、世界に発信することを目指します。

#### ◇SDGs達成に貢献する姿を示す

「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに掲げる大阪・関西万博において、地元開催都市として「いのち」に対する価値観や考え方が地元パビリオンを訪れる前後で大きく変わる、SDGs達成目標の2030年以降を見据えて取り組む大阪の姿勢を示し、世界に発信することを目指します。

#### ◇未来社会のモデルを提案

新技術やサービスなどを実装・実証し、誰もが心身豊かで快適に暮らしやすい未来社会のモデルを創造し、提案できる取り組みを目指します。

### (2) 大阪のパワーを世界に発信

パビリオンにおけるイベント・催事によって、年齢、性別、国籍や文化を越えて世界中の人々が最先端技術を駆使した参加・体験型のエンターテインメントをリアルとバーチャルで体感し、交流する空間を演出し、大阪のパワーと魅力を世界に発信します。

#### ◇世界中からのアクセスを実現

万博会場に来られない方でも、WebやICT技術などの最先端技術を活用したバーチャル参加など、世界中からパビリオンへのアクセスを実現するとともに、パビリオンを訪れた方にもバーチャル技術などを駆使し、大阪の未来の姿やパワーを感じてもらえる取り組みを目指します。

#### ◇大阪の魅力を世界に発信

人の温かみや人情、コミュニケーション能力の高さなど、大阪ならではの「人そのもの魅力」や天下の台所・食い倒れと表現されてきた「大阪の食文化」などの魅力を世界に発信し、大阪と世界との交流を巻き起こす取り組みを目指します。

### 3. 出展参加のテーマ

## REBORN (リボーン)

~○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○~

2025年大阪・関西万博に地元大阪が出展参加するにあたってのテーマは「REBORN (リボーン)」です。このテーマには“「人」は生まれ変わる”、“新たな一歩を踏み出す”という意味を含めています。

#### “「人」は生まれ変わる ”

私たちの誰もがこの世に生まれ、人生を歩む中で、日々様々な出会いや発見をくり返しながらか「人」として成長し、年齢を重ねていきます。一人ひとりがいきいきと豊かな人生を送るためには、自分に合った価値観や生き甲斐を見出すことが大切です。

大阪・関西万博開催を機に、すべての「人」が自分らしい生き方をあらためて見つめ直すことで、自分自身の価値観や生き甲斐の発見・再認識、自己実現への意欲・意識の変革を促し、新たな自分への「生まれ変わり」に貢献する取組みを展開できればというものです。

#### “ 新たな一歩を踏み出す ”

人は自分が頼りにされている、何かの役に立っている、と感じると、やり甲斐を感じるのではないのでしょうか。家族の一員として、地域の一員として、国民として、地球市民として、今自分に何ができるかを再認識し、勇気をもって行動につなげていくことができれば、やり甲斐を実感し、それが活動の新たな原動力となって、世界中のあらゆる世代の「人」にとって素晴らしい世界が実現していくのではないのでしょうか。

一人ひとりの意欲・意識の変革が具体的な行動変容へとつながり、より良い生活環境、暮らしやすい社会創りに貢献し、「いのち輝く未来社会」につなげていければというものです。

## 4. テーマ展開の視点

わが国では、目指すべき未来社会の姿として、サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の快適で質の高い生活、活力ある社会、いわゆる**Society5.0**を提唱しています。

出展にあたっては、私たちが掲げるテーマ「**REBORN**（リボーン）」のもと、「**健康**」という観点から未来社会の新たな価値の創造に取り組めます。また、「知る・感じる」「体験できる」「みんなに参加できる」という視点から、展示やイベントを通じ本博覧会の3つのサブテーマ、「**Saving Lives**（いのちを救う）」、「**Empowering Lives**（いのちに力を与える）」、「**Connecting Lives**（いのちをつなぐ）」にアプローチします。

### (1)生活の質（QOL）の向上に資する新たな価値創造

大阪府・大阪市では、誰もがいきいきと活躍できる健康寿命の延伸と「**10歳若返り**」の実現を目標に掲げ取り組みを推進しています。

**2020**年の新型コロナウイルス禍は、未解明の感染症の世界的な拡大という未曾有の事態となり、人々の生活や社会経済への甚大な影響を私たちは経験しました。

こうした経験も踏まえ、『健康』という観点から最新の技術を活用したイノベーションによって新たな価値を創造し、最先端の医療や幸福な生き方のできる未来社会を具現化します。

### (2)生き活きと元気に楽しく生きる提案

国籍や言葉が違っていても、暮らす場所や生き方が違っていても、仕事や趣味が違っていても、「生き甲斐」、「やり甲斐」を感じながら、日々の暮らしを生き活きと元気に、楽しく過ごしたい願望を持つこと自体は、老いも若きも同じです。

「いのちに力を与える」「いのちをつなぐ」という視点から、「自分自身を見つめなおす」、「自己実現意欲を高める」、「自分らしい生き方を再認識・再発見する」、そのような体験を提供します。

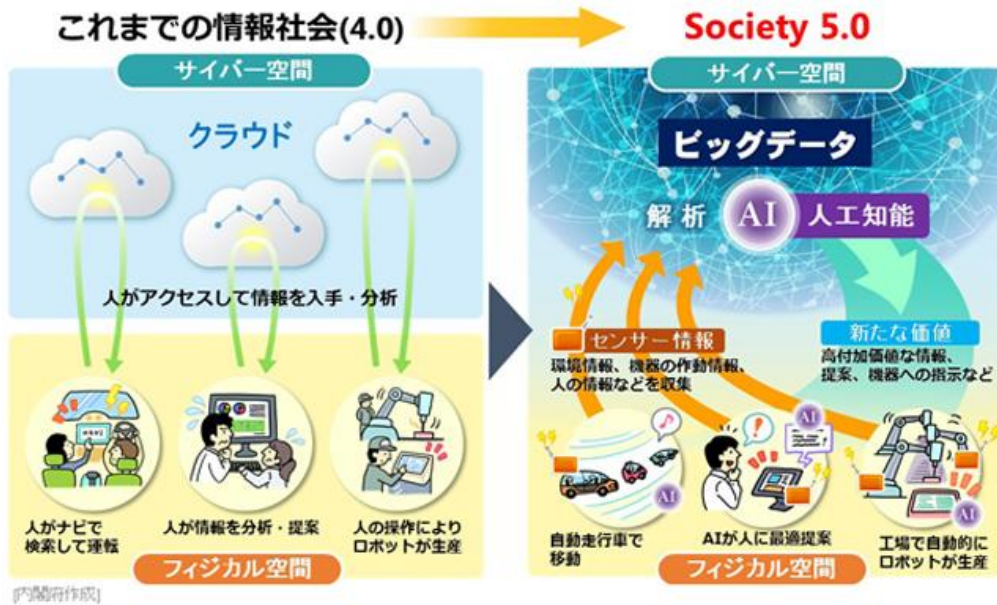
### (3)サイバー空間とフィジカル空間の融合

今、新型コロナウイルスの感染拡大により、「新しい生活様式」が提唱され、「**with**コロナ」、「**After**コロナ」社会が注目されています。新型コロナウイルスと“共に生きる”ことを前提にライフスタイルそのものを大きく変えていこうという動きが、世界の潮流となりつつあります。

「ソーシャルディスタンス」や「非接触」という考え方が、私たちの生活の様々な場面で重要性を増しているこれからの時代に柔軟に対応していくためにも、世界中の人々がアクセスできるサイバー空間のより効果的な活用、イノベーションによって新たなエンターテインメントを創出し、**IoT**、ロボット、人工知能（**AI**）などを活用したリアルな体験に加え、バーチャル体験など、工夫を凝らした展示を実現します。

参考：Society 5.0 <出典：内閣府ホームページ抜粋>

Society 5.0では、フィジカル空間のセンサーからの膨大な情報がサイバー空間に集積されます。サイバー空間では、このビッグデータを人工知能（AI）が解析し、その解析結果がフィジカル空間の人間に様々な形でフィードバックされます。今までの情報社会では、人間が情報を解析することで価値が生まれてきました。Society 5.0では、膨大なビッグデータを人間の能力を超えたAIが解析し、その結果がロボットなどを通して人間にフィードバックされることで、これまでには出来なかった新たな価値が産業や社会にもたらされることとなります。



Society 5.0では、各個人のリアルタイムの生理計測データ、医療現場の情報、医療・感染情報、環境情報といった様々な情報を含むビッグデータをAIで解析することにより、「ロボットによる生活支援・話し相手などにより一人でも快適な生活を送ること」「リアルタイムの自動健康診断などでの健康促進や病気を早期発見すること」「整理・医療データの共有によりどこでも最適な治療を受けること」「医療・介護現場でのロボットによる支援で負担を軽減すること」といったことができるようになることと、社会全体としても医療費や介護費などの社会的コストの削減や医療現場等での人手不足の問題を解決することが可能となります。

